

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

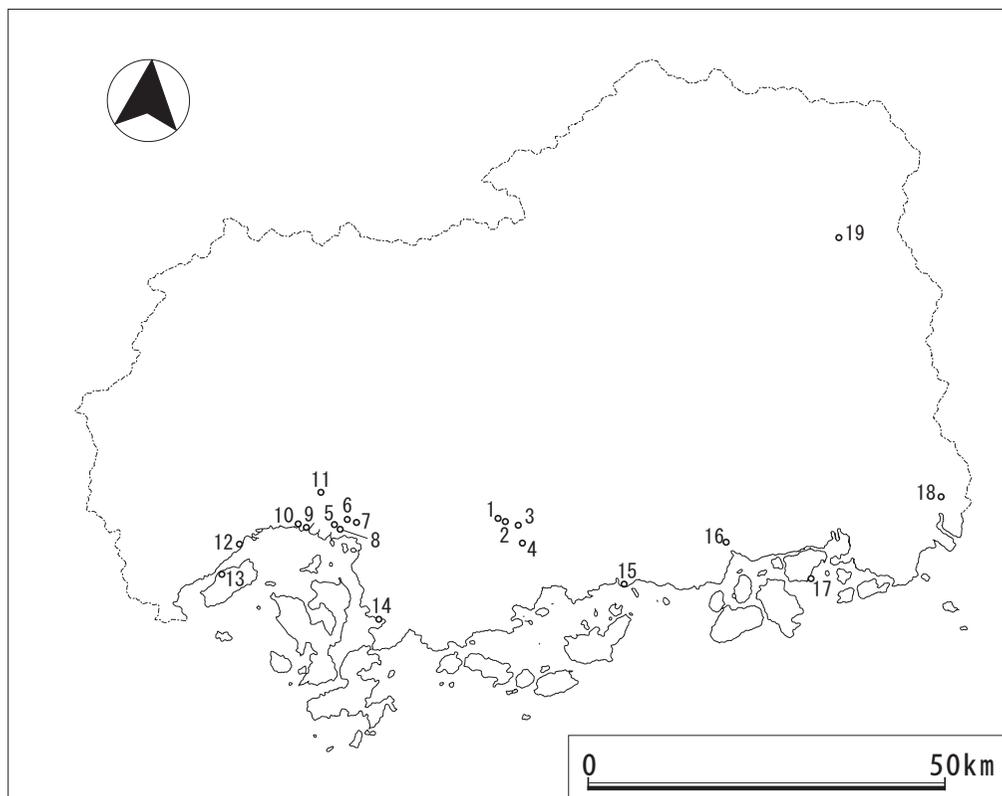
Title	2. 開発に伴う協議と立会・試掘調査の概要（2018年度）
Author(s)	広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門,
Citation	広島大学埋蔵文化財調査研究紀要 , 11 : 87 - 119
Issue Date	2020-03-31
DOI	
Self DOI	10.15027/49011
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00049011
Right	
Relation	



2. 開発に伴う協議と立会・試掘・発掘調査の概要（2018年度）

1. はじめに

広島大学が所管する広島県内の施設所在地は、本部キャンパスが位置する東広島市および統合移転する以前に本部キャンパスなどが所在した広島市を中心に広島県各地に分散しており、合計 27ヶ所を数える（大学・附属学校校舎等を中心とする敷地 7ヶ所、研究所等施設敷地 7ヶ所、課外活動施設敷地 4ヶ所、職員宿舍敷地 7ヶ所、その他 2ヶ所）。これら大学関連施設において 2018 年度の埋蔵文化財に関連した開発事業に伴って 47 件の協議を行った（学内協議のみ 5 件、発掘届 3 件、現状変更届 1 件、変更届 1 件）。こ



第 38 図 広島大学の校地所在地図（職員宿舍・その他を除く）

1. 東広島地区
2. サイエンスパーク地区
3. 西条三永地区
4. 下三永地区
5. 東千田地区
6. 霞地区
7. 東雲地区
8. 翠地区
9. 観音地区
10. 庚午南地区
11. 三滝地区
12. 廿日市地区
13. 宮島地区
14. 呉地区
15. 竹原地区
16. 三原地区
17. 向島地区
18. 春日地区
19. 帝釈未渡地区

第7表 2018年度（平成30）広島大学における開発に伴う埋蔵文化財協議・発掘届一覧

	件名	対象面積	協議書・発掘届提出日	対応
東広島地区				
1	西第一福利会館外部建具取設	10.5 m ²	2018年4月	工事
2	(東広島) ショベル実機試験	2,550 m ²	2018年4月	試掘(立会)
3	鏡西谷遺跡整備芝張り工事	約52 m ²	2018年5月	試掘(立会)
4	工学部講義棟B1・B4改修機械設備工事	8 m ²	2019年3月	工事
5	(東広島) 環境整備(かがら口舗装)工事	約980 m ²	2018年12月	工事
6	(東広島) 中央図書館南側雨水排水管補修工事	約10 m ²	2018年8月	試掘(立会)
7	理学部研究棟C南側歩道舗装改修	約10 m ²	2018年8月	工事
8	(東広島) ががら道スピードランプ設置工事	29 m ²	2018年5月	工事
9	(工) 屋外埋設給水管漏水修繕	1 m ²	2018年5月	工事
10	(東広島) 東体育館駐車場生活系排水管補修	3.0 m ²	2018年6月	工事
11	広島大学(東広島地区) 平和企画としてのタイムカプセル埋設	350.0 m ²	2018年6月	試掘
12	(東広島) 学生宿舍屋外埋設給水管漏水修繕	14 m ²	2018年7月	工事
13	(東広島) 駐車場舗装打替え等工事	440.98 m ²	2018年7月	工事
14	(東広島) 中央図書館西法面復旧工事(災害復旧)	約340 m ²	2018年7月	工事
15	農場地区 KDDI 携帯基地局設置工事※	4 m ²	2018年9月	試掘(立会)
16	広島大学(東広島) 南地区給水管敷設	100 m ²	2018年9月	工事
17	(教) 西側歩道バリカー設置等補修工事	1.2 m ²	2018年10月	工事
18	(東広島) 池の上学生宿舍11号館北側法面補修工事(災害復旧)	約48 m ²	2018年10月	工事
19	(東広島) 環境整備(南グランドサッカー場)工事	1,392 m ²	2018年11月	工事
20	(サイエンス) イノベーションプラザ屋外光ケーブル敷設	約10 m ²	2018年12月	工事
21	西第二福利会館冷凍機設置工事	約10 m ²	2018年12月	工事
22	(東広島) ががら山等災害復旧設計業務・陣が平山災害復旧設計業務	約1.7 m ²	2018年12月	工事
23	(東広島) 環境整備(かがら口舗装)追加工事	約480 m ²	2018年12月	工事
24	賑わいパピリオン新営工事	約500 m ²	2019年1月	工事
25	(東広島) 環境整備(南グランドサッカー場)追加工事	11200 m ²	2019年1月	工事
26	(東広島) 東地区エネルギーセンター107-2室D種接地取設	18.64 m ²	2019年1月	工事
27	(東広島) 西体育館1階柔道場等空調用電源取設工事	56 m ²	2019年2月	工事
28	(東広島) 敷地南側車止め設置工事	0.4 m ²	2019年2月	工事
29	(東広島) 東第一駐車場舗装他補修工事	約167 m ²	2019年2月	工事
30	教育学研究科管理棟北側点字ブロック一部撤去・埋戻作業	4.68 m ²	2019年2月	工事

西条三永地区				
1	(西条三永) 雨水桝廻り陥没補修工事	7.05 m ²	2018年4月	工事
2	(三永) テニスコート南等陥没補修他	約3 m ²	2018年8月	工事
3	(三永) テニスコート東陥没補修	約45 m ²	2018年11月	工事
霞地区				
1	(霞) 臨床管理棟東側通路補修	3.0 m ²	2018年7月	工事
2	(霞) 動物実験棟北側屋外排水管詰まり修理	1.3 m ³	2018年11月	工事
東千田地区				
1	広島大学(東千田地区) 平和企画としてのタイムカプセル埋設	102.0 m ²	2018年6月	立会
2	(東千田) 仮設スロープ取設	約60 m ²	2018年6月	工事
3	(東千田) 看板設置	約1 m ²	2019年1月	工事
翠地区				
1	中高体育館屋外排水改修	4.1 m ²	2018年5月	工事
2	(翠) バスケットコート補修工事	2.7 m ²	2018年6月	工事
3	(翠) 中・高課外活動施設新営工事における基礎工事	33.6 m ²	2018年9月	工事
宮島地区				
1	(宮島) 大元排水池改修工事※	約2 m ²	2018年7月	工事
2	(宮島) 道路法面災害復旧工事	28 m ²	2019年1月	工事
竹原地区				
1	竹原ステーション携帯電話基地設置工事※	16.0 m ²	2019年1月	立会
三原地区				
1	(三原) 陶芸教室周り給水管漏水修繕	約771 m ²	2018年4月	立会
2	(三原) 外灯取替	0.5 m ²	2018年10月	立会
春日地区				
1	(春日) 体育館南側排水管敷設替え補修	10.26 m ²	2018年5月日	工事

件名の最後に*印を付したものは大学外の事業者が開発原因者である

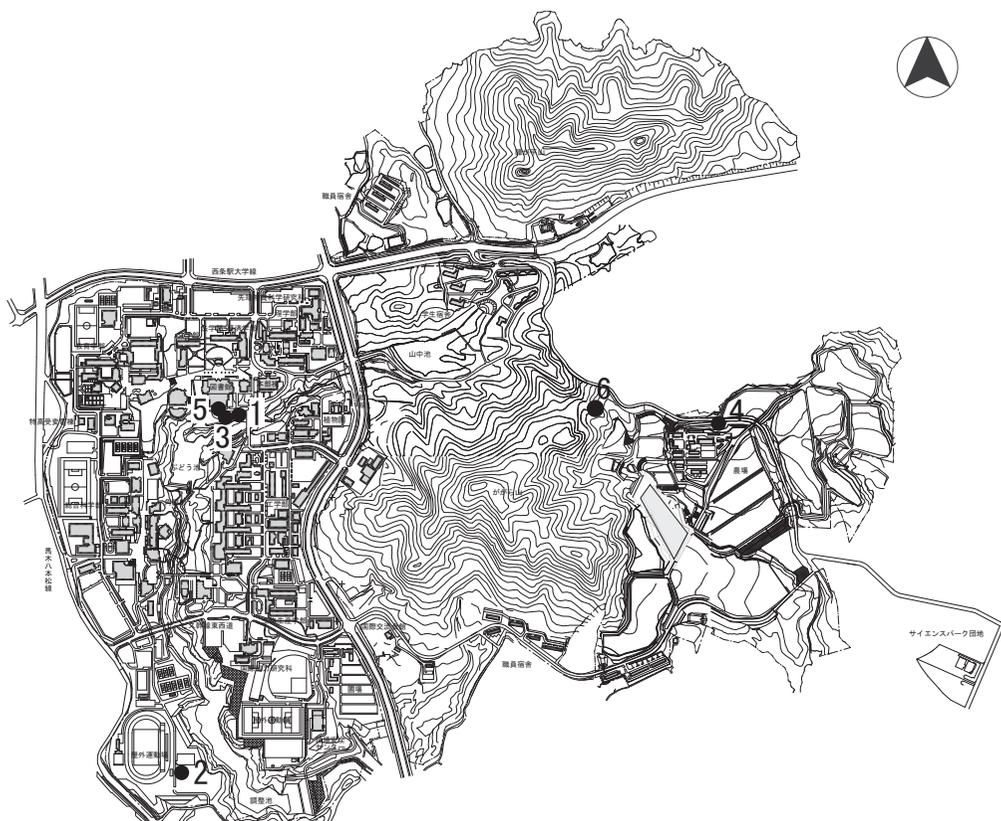
のほかに、昨年度協議済で本年度立会調査を実施したものが2件ある(第7表参照)。

また、今年度から、東広島市内のキャンパスの開発に伴う埋蔵文化財協議は、周知の遺跡を除き、すべて総合博物館(埋蔵文化財部門)から回答を行い、4半期ごとに東広島市教育委員会に協議の内容と回答を報告する形で進めることとなった。

東広島地区、三原地区の開発工事に伴って発掘届(文化財保護法第93条)3通を提出した。また、東広島地区の遺跡保存整備が1件あり、変更届を提出した。このほか、農場地区KDDI携帯基地局設置工事は、学外者が広島大学敷地の一部を借地し、施設等

を設置するもので、広島大学外の事業者が工事主体である。発掘届（文化財保護法第93条）は事業主体者のKDDIが提出しており、工事実施の際に立会調査を行った。

本年度の開発事業については、協議回答等に基づき、合計15件18.0日の立会・試掘調査を実施した。東広島地区では9件8.5日（外部組織による開発1件を含む）の立会・試掘調査を実施した。9件のうち1件は遺跡整備に伴うもので、1件は7月豪雨災害被災状況調査である。残り7件については遺構・遺物とも検出されなかった。霞地区では1件3.5日の立会調査を実施した。立会調査は（病）YHRミュージアム新営工事で、前年度に試掘調査を実施したものである。試掘調査では遺構は検出されなかったが、今回の立会調査で広島陸軍兵器支廠（補給廠）関連の石垣を確認した。このほか、東千田地区で2件1.5日、宮島地区で1件0.5日、竹原地区で1件2.0日、三原地区で2件2.0日の



第39図 2018年度東広島地区の試掘（立会）調査位置図（縮尺1：20,000）

- 1.（東広島）東大橋周辺ヤマツツジ植栽、2.（東広島）シヨベル実機試験、3.（東広島地区）平和企画としてのタイムカプセル埋設、4. 農場地区 KDDI 携帯基地局設置工事、5.（東広島）中央図書館南側雨水排水管補修工事、6. 鏡西谷遺跡整備芝張り工事）

立会調査を行った。竹原地区では石垣が検出され、近世～近代の遺物が出土したが、その他では遺構、遺物は検出されなかった。本年度の調査では時期の明確な遺構・遺物の検出はほとんど見られなかった。

2. 試掘・立会調査の概要

次に、地区ごとに、試掘調査、立会調査の概要について述べる。

東広島地区（東広島市）

1)（東広島）東大橋周辺ヤマツツジ植栽

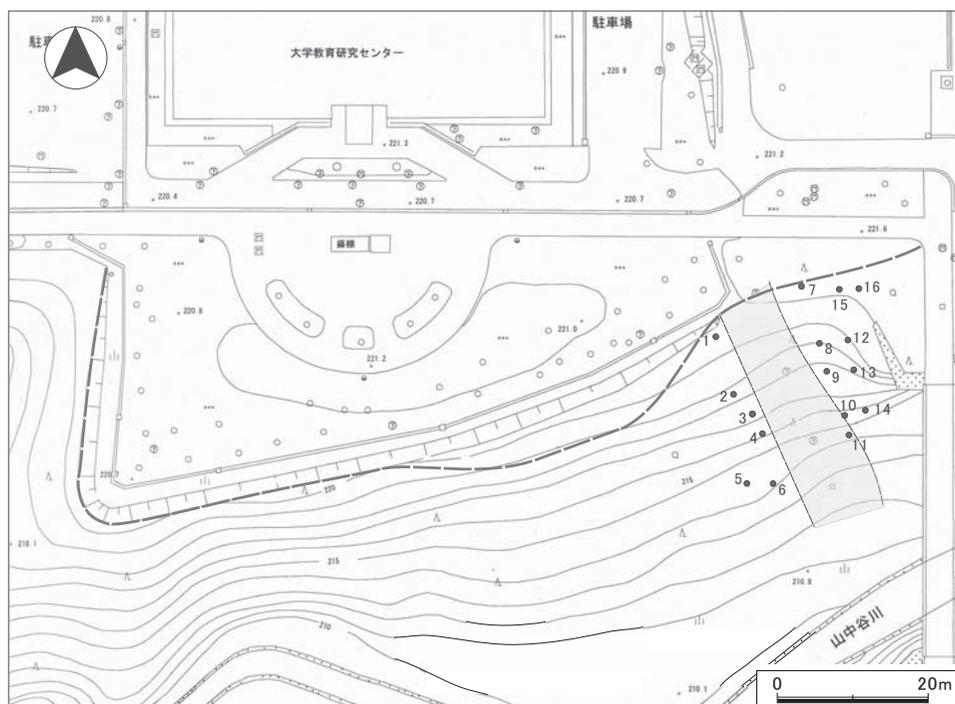
所在地 東広島市鏡山一丁目2番2号

調査期間 2018（平成30）年4月5日

調査面積 約40㎡

調査者 藤野次史

調査概要（東広島）東大橋周辺ヤマツツジ植栽に伴って試掘調査を実施した（第39



第40図（東広島）東大橋周辺ヤマツツジ植栽工事調査区平面図（縮尺1：1,000）

（黒丸は調査区、数字は調査区番号を示す。破線は、旧地形削平範囲の南端および西端を、薄い灰色の範囲は排水管および排水柵設置のための掘り方（掘削範囲）を示す。）



27-1 調査区全景（東より）



27-2 植栽掘り方調査状況（東より）



27-3 1区掘り方完掘状況（南西より）



27-4 6区掘り方完掘状況（南西より）



27-5 12区掘り方完掘状況（南より）



27-6 16区掘り方完掘状況（南より）

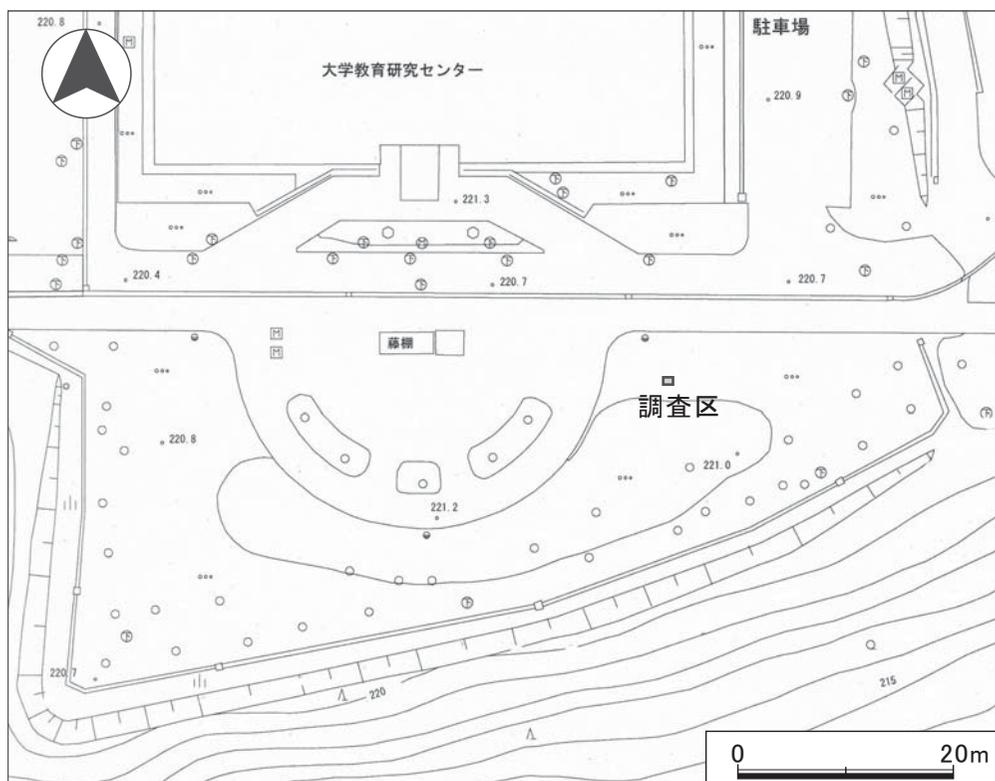
写真 27（東広島）東大橋周辺ヤマツツジ植栽に伴う試掘調査

図 1)。ヤマツツジ移植予定範囲のうち、北端部は統合移転の際に自然地形が削平されたと推定され（第 40 図破線）、中央部は排水管ならびに排水樹設置のために自然地形が削平されていた（第 40 図灰色部分）。このことから、自然地形が残されていると考えられる場所に植栽されるヤマツツジは合計 16 ヶ所であった。北西隅の植栽予定地から掘り方を掘削して遺構・遺物の有無を確認した（第 40 図●印）。調査（掘削）の順に、1 区から区名を付し、遺構遺物の確認と堆積状態の記録を行った。植栽のための掘り方はおおむね直径 50～60cm の規模である。掘り方の深さは多少のばらつきがあり、斜面上方側で深さ 30～50cm の規模で掘削した。北側の斜面上方部の一部で、工事造成土、西条湖成層が見られる箇所があったが、その他はおおむね黄褐色系～灰褐色系の砂質土が主体であった（写真 27－3～6）。調査では、遺物、遺構とも検出されなかった。

2) (東広島地区) 平和企画としてのタイムカプセル埋設

所在地 東広島市鏡山一丁目 2 番 2 号

調査期間 2018 (平成 30) 年 10 月 17 日



第 41 図 (東広島地区) 平和企画としてのタイムカプセル埋設工事調査区位置図 (縮尺 1:1,000)

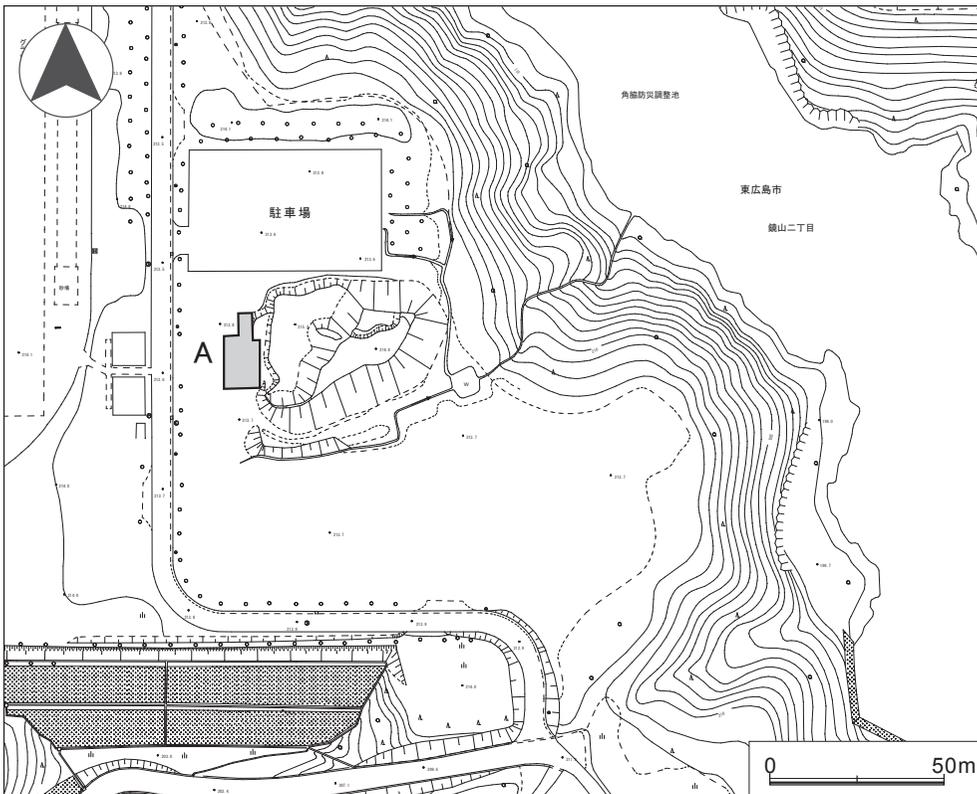


28-1 調査風景（南東より）



28-2 完掘状況（東より）

写真 28（東広島地区）平和企画としてのタイムカプセル埋設に伴う試掘調査



第 42 図（東広島）ショベル実機試験調査区平面図（縮尺 1 : 600）
（灰色で区画された部分（A）が調査区である）

調査面積 約 1.6 m²

調査者 藤野次史

調査概要 広島大学（東広島地区）平和企画としてのタイムカプセル埋設に伴って試掘調査を実施した（第 39 図 3）。中央図書館南側の国際の森内にタイムカプセルを埋設するため、東西 0.8 m、南北 0.6 m の規模で、地表下 0.6 m まで掘り方を掘削した。堆積層は、表土層（約 20cm）、黄褐色土（灰色粘土ブロックおよび礫まじりで良く締まる、約 25cm）、暗黄褐色粘質土の順で堆積していた。表土下は全て造成土と思われ、所々で大型礫や針金などを含んでいた。調査では、遺構、遺物とも検出されなかった。



29-1 調査区全景（西より）

3)（東広島）ショベル実機試験

所在地 東広島市鏡山二丁目 812 番 62

調査期間 2018（平成 30）年 11 月 19 日

調査面積 2,550.0 m²

調査者 藤野次史

調査概要（東広島）ショベル実機試験に伴って試掘（立会）調査を実施した（第 39 図 2）。掘削実験の対象地には統合移転後に大学内で行われた工事の残土の一部が小山状に盛土されており、それらの盛土も含めて掘削した。掘削部分は、南北約 11 m、東西約 4 m の範囲で、深さ 2.5 m まで掘削した。盛土下の堆積層は暗灰色砂質土（大型礫まじり）で、すべて造成土と判断された。掘削では、旧表土や西条湖成層、花崗岩岩盤も確認され

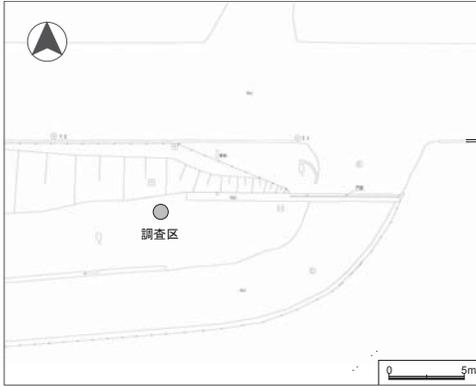


29-2 掘削（実験）状況（南西より）



29-3 調査完了状況（西より）

写真 29（東広島）ショベル実機試験に伴う試掘（立会）調査



第 43 図 農場地区 KDDI 携帯基地局設置工事
調査区平面図（縮尺 1：500）
（灰色丸が調査区（基地局柱掘り方）である）

なかった。遺物、遺構とも検出されなかった。

4) 農場地区 KDDI 携帯基地局設置工事

所在地 東広島市鏡山二丁目 2965 番

調査期間 2018（平成 30）年 11 月 15 日

調査面積 2.0 m²

調査者 藤野次史

調査概要 農場地区 KDDI 携帯基地局設置工事に伴って試掘（立会）調査を実施した（第 39 図 4）。掘り方上部は手掘りで掘削を行った。直径約 0.7 m の規模で、深さ約 1 m まで掘削した。表土（厚さ約 5cm）



30-1 調査区全景（東より）



30-2 機械（ドリル）による掘削状況（北より）



30-3 調査区堆積状況（北南より）

写真 30 農場地区 KDDI 携帯基地局設置工事に伴う試掘（立会）調査

下に固い真砂土層(厚さ約 20cm)があり、その下層は比較的均質な暗黄褐色真砂土である。盛土(工事造成土)と考えられる。地表下 1 m 以下は機械(ドリル)で掘削した。幅(直径)は約 1 m の規模で、順次掘り下げ、約 3.7 m まで掘削した。直接掘削状況を確認することはできないので、排土のためドリルと一緒に上がってくる堆積土の色調、質、遺物の有無を確認した(写真 30-2)。掘り始めから下底までほとんど黄褐色真砂土であり、最下底で灰色粘土(小石まじり)が認められた(写真 30-3)。谷埋積土の可能性はある。

遺物、遺構とも検出されなかった。

5) (東広島) 中央図書館南側雨水排水管補修工事

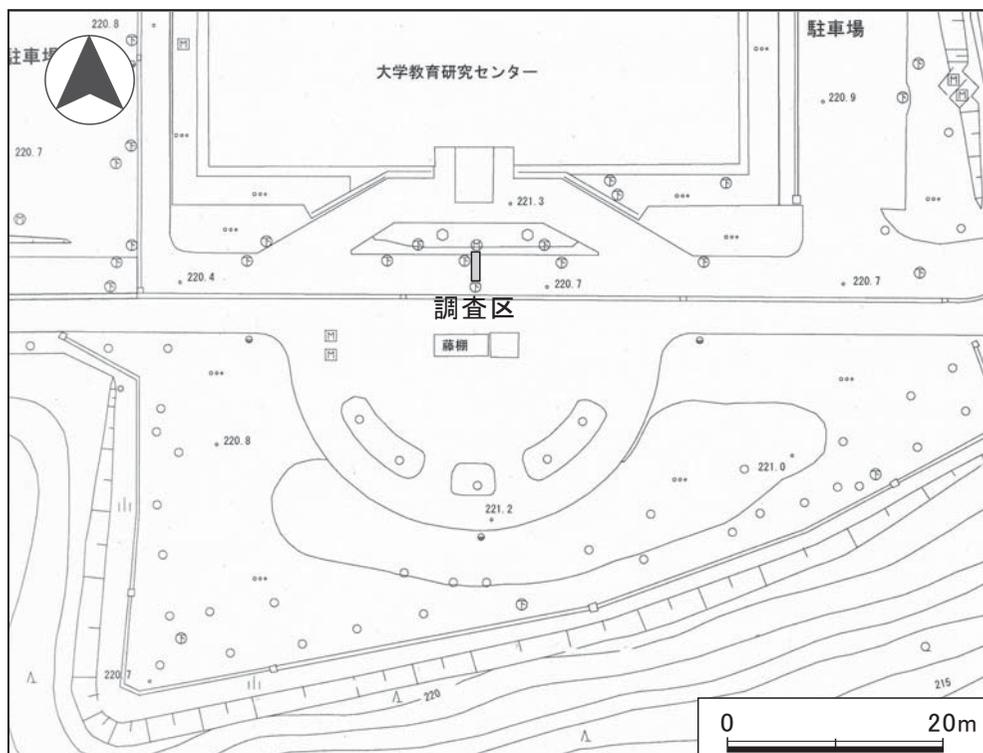
所在地 東広島市鏡山一丁目 2 番 2 号

調査期間 2019 (平成 31) 年 2 月 26 日

調査面積 約 10 m²

調査者 藤野次史

調査概要 (東広島) 中央図書館南側雨水排水管補修工事に伴って試掘(立会)調査



第 44 図 (東広島) 中央図書館南側雨水排水管補修工事調査区平面図(縮尺 1 : 700)
(灰色長方形が調査区である)



31-1 調査区全景（東より）



31-2 掘削状況（西より）



31-3 コンクリート層検出状況（南西より）



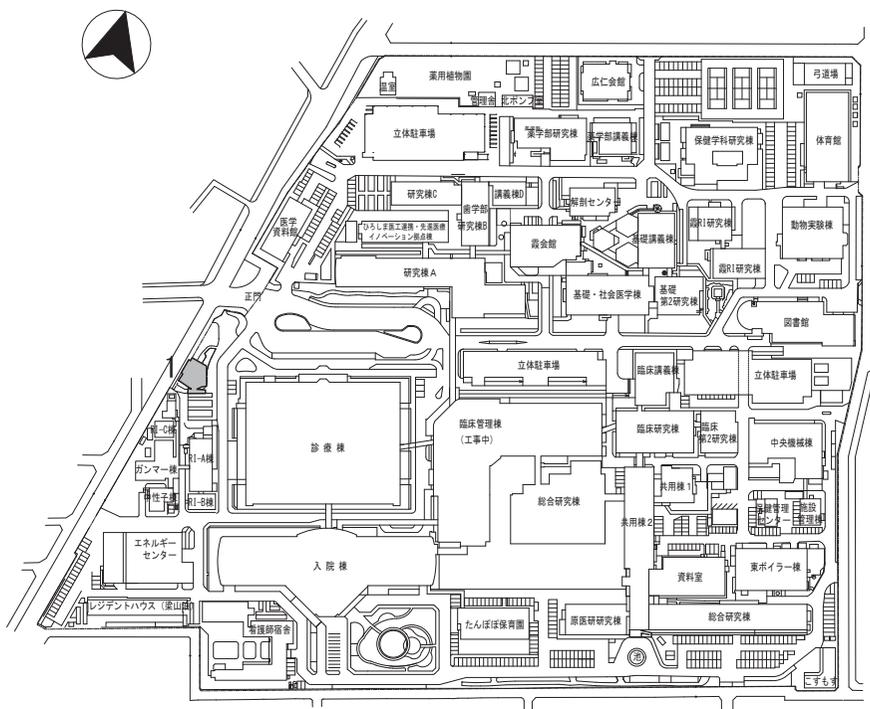
31-4 完掘状況（北西より）

写真 31 中央図書館南側雨水排水管補修工事に伴う試掘（立会）調査

を実施した（第 39 図 5）。アスファルト舗装の撤去後、配管掘り方をバックホウにより掘削した。掘り方は、南北約 2.4 m、東西約 0.9 m の規模で、深さ約 1.6 m まで掘削した。調査区北部においてアスファルト直下より約 0.3 m 下層（コンクリート基礎碎石層直下）でコンクリート層を検出した（写真 31-3）。厚さは約 0.1 m、幅（南北）約 0.9 m の規模で、東西は調査区の外に続いている。アスファルト直下から掘り込んで構築しており、掘り方は南北約 1.2 m の幅である。コンクリート層の直下は碎石混じりの層で、基礎と思われる。統合移転後に構築されたものと考えられるが、現状では性格は不明である。コンクリート層掘り方の下層は橙褐色粘質土層、橙褐色砂質土層（暗灰色粘土ブロック混じり）、暗灰色粘土層の順で堆積していた。また、隣接部に汚水マンホールがあり、地表下約 1.2 m で東西に敷設された汚水管（直径約 20cm）を確認した。

堆積状況の概要は以下の通りである（写真 31-4）。

1層：アスファルト舗装、2層：碎石層（碎石細粒、舗装基礎）、3層：碎石層（碎石粗粒、



第 45 図 2018 年度震地区の立会調査位置図（縮尺 1 : 5,000）

(1. (病) YHR ミュージアム新営工事)

舗装基礎)、4層：暗褐色砂質土（碎石混じり）、5層：コンクリート層、6層：碎石層（碎石細、コンクリート層基礎）、7層：碎石層（碎石粗、コンクリート層基礎）、8層：橙褐色粘質土、9層：橙褐色砂質土（暗灰色粘土ブロック混じり）、10層：暗灰色粘土層（谷の堆積土に類似）

調査では、遺物、遺構とも検出されなかった。

6) 鏡西谷遺跡整備芝張り工事

所在地 東広島市鏡山二丁目 341 番

調査期間 2018（平成 30）年 4 月 19 日～5 月 31 日、6 月 8・12・14・19 日

調査面積 約 52 m²

調査者 石丸恵利子

調査概要 鏡西谷遺跡整備芝張り工事に伴って立会調査を行った（第 39 図 6、普及・教育・研究活動報告編を参照）。

霞地区（広島市）

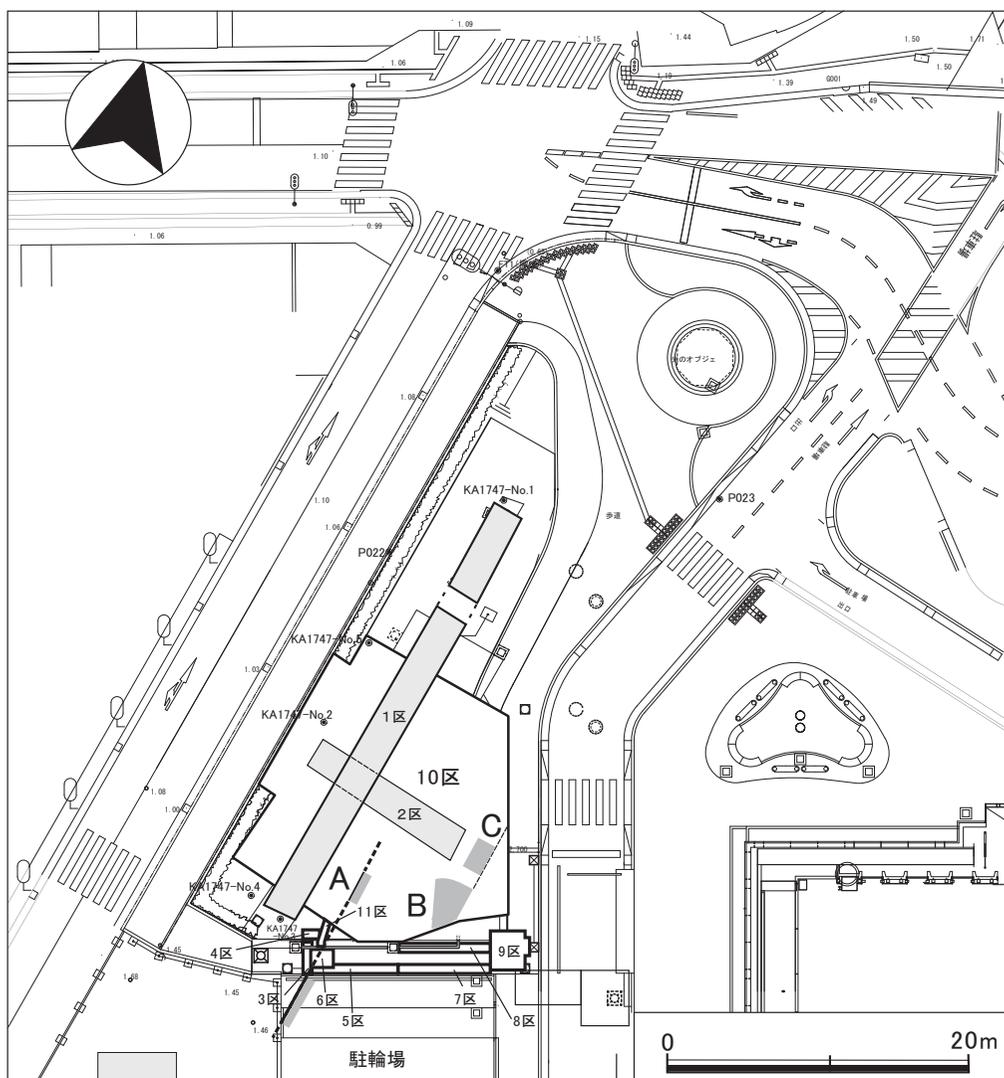
1) (病) YHRミュージアム新営工事

所在地 広島市南区霞一丁目2番3号

調査期間 2018（平成30）年4月16・17・24・26日

調査面積 約700 m²

調査者 藤野次史



第46図 (病) YHRミュージアム新営工事調査区平面図（縮尺1：500）

（1区、2区は試掘調査区、3～11区は立会調査区である。Aは石垣、B・Cはコンクリート床である。）

調査概要 (病) YHRミュージアム新営工事に伴って立会調査を実施した(第34図1)。調査は、建物周囲の外構工事(3～9・11区)とミュージアム建物基礎工事(10区)に分けて行った。

① 外構工事 (3～9・11区)

電気配管・汚水配管および柵設置のための掘り方である(各区の掘り方の規模は第8表を参照)。3・4・5・7・11区は電気配管掘り方で、11区を除くと、掘削深度は約0.6mである。8区は排水管掘り方で、西端には既設配管が位置する。6区および9区はハンドホール(電気柵)の掘り方であり、0.8～0.9mまで掘削した。11区は建物基礎への配管引き込み部であり、約1.5mまで掘削した(写真33-1)。11区の堆積は、上層より、第1層表土層、第2層橙褐色砂質土(サクラの庭造成土)、第3層灰褐色砂質土(工事埋土)、第4層橙褐色砂質土(固く締まりやや粘性あり)、第5層黒色～灰黒色砂質土(灰、炭化物混り)、第6層黄褐色～橙褐色砂質土(真砂土、兵器支廠造成土)の順である(写真33-1)。第6層は地表下約1.3m以下に堆積している。第4層は隣接地の3・5・6区でも確認した(写真32-3・4)が、6区東部以東には堆積が認められず、比較的狭い範囲にのみ広がっていると推定された。他の調査区の掘削深度が0.6m程度であることから、第6層の広がりについては確認していないが、7区中央付近(西端から約2m東)で大きく堆積状況が変化し、東側は旧原爆放射能医学研究所・研究B棟の根切り範囲と推定できることから、広く見積もっても7区西部付近までと想定される。兵器支廠造成土のほかは遺構・遺物とも検出されなかった。

② ミュージアム建物基礎工事 (10区)

建物基礎を主体とする掘り方で、平面は東西約18.7m、南北約17.7mの変形五角形の形状である。全面を約0.8mまで掘り下げ、柱基礎掘り方の部分を1.2mまで掘削した。堆積層は11区の基本層序と同様であるが、第6層(兵器支廠造成土)の残存状況が場所によって異なっていた。多くの場所では地表下0.8～0.9m付近で上面を確認した。市道側では旧宇品線に関連すると思われる黒褐色土が比較的浅い位置(地表下0.5m前後)から厚く堆積しており、第6層は地表下1.2m以下で認められた。また、後述するコンクリート床付近では地表下0.3～0.5m付近で上面を検出し、厚い堆積を確認した。

調査区内で石垣およびコンクリート床を検出した。石垣は調査区南端から北へ約1.9m、調査区西端(市道との境界)から東へ約9.2mの位置で南端を検出した。切石状の花崗

第8表 (病) YHRミュージアム新営工事
調査区(3～9・11区)規模一覧表

区名	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)
3	1.5	0.4	0.6
4	1.1	0.4	0.65
5	6.0	0.65	0.65
6	1.5	1.2	0.8
7	4.5	0.8	0.6
8	4.5	0.6	0.35
9	2.3	2.6	0.9
11	2.0	1.0	1.5



32-1 外構工事予定地区（4～9区）全景（北より）



32-2 5区掘削状況（南西より）



32-3 外構工事地区（3・5～9区掘削完了状況（北東より）



32-4 6区兵器支廠造成土露出状況（南より）



32-5 美術館建物地区（10区）全景（東より）



32-6 10区掘削状況（南より）

写真 32（病）YHRミュージアム新営工事に伴う立会調査（1）



33-1 11区堆積状況（北東より）



33-2 10区南部石垣検出状況（南西より）



33-3 10区南東隅部コンクリート床検出状況（東より）



33-4 10区中央部東端コンクリート床検出状況（南より）



33-5 10区掘削終了状況（南より）



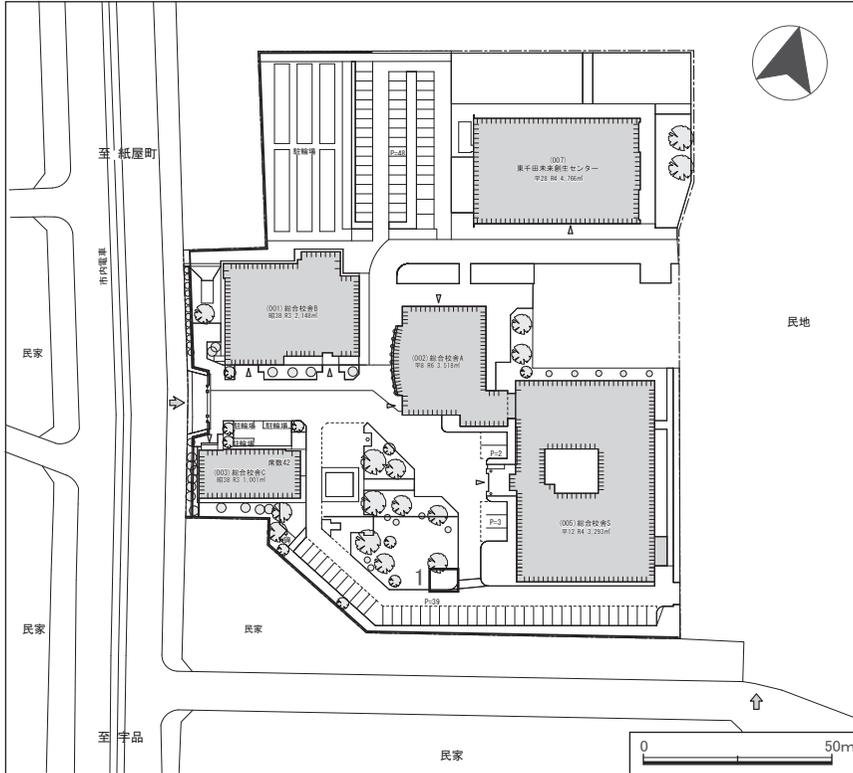
33-6 10区掘削終了状況（東より）

写真 33（病）YHRミュージアム新営工事に伴う立会調査（2）

岩 6 点を南北に配置しており、南北約 2.2m の規模である（第 46 図 A、写真 33-2）。西側を石垣面とする。構成石の上面観は方形もしくはわずかに奥側が狭くなる台形状である。構成石は、幅 30 ～ 40cm、長さ（奥行）30 ～ 40cm、高さ約 30cm の大きさである。中央部の 1 点と南端部の 1 点はバックホウによる掘り下げの際に若干移動したが、いずれの構成石も基本的に原位置を保っており、上面がわずかに奥に向かって傾斜している。雨天のため石垣の掘り方や構造の調査はできなかったが、構成石の下層や背後にはこぶし大の角礫を中心に小型の角礫が多数認められ、構成石の東側 0.5 ～ 1 m の間に掘り方の東端があるものと推定された。石垣の最下段と考えられる。市道にほぼ並行しており、2013 年度実施の新外来診療棟外構工事（駐輪場建設工事）に伴う調査（藤野 2016）で検出した石垣の延長線上に位置していることを確認した。隣接部に宇品線上大河駅（兵器支廠前駅）が位置していたことから、広島陸軍兵器補給廠（支廠）の西端境界施設あるいは上大河駅（兵器支廠前駅）に関連する石垣の可能性がある。

コンクリート床は調査区南東隅部で検出した（第 46 図 B、写真 33-3）。床上面は地表下約 1.2 m に位置し、検出範囲は、南北 3.6 m、東西約 2.5 m である。東側の端を確認しており、東端縁辺（南北方向）は市道にほぼ平行している。また、端から約 10cm 幅でわずかに高まりが認められ、壁が位置していたものと推定され、調査区南壁でコンクリート床と一体となったコンクリート壁を確認した。コンクリート壁上面は表土直下に位置し、高さ約 1.2 m の規模であった。コンクリート床は表面が平滑に仕上げられており、床面上やコンクリート壁内面にはヘドロ状の暗灰褐色粘質土が堆積していた。調査区南端はミュージアム建物の柱基礎掘り方部に位置することから掘り下げる必要があり、2 m × 2 m の規模でコンクリート床を撤去した。コンクリート床の厚さは 10cm 程度で、骨材は円礫を含むが、角礫・亜角礫が主体であり、鉄筋が使用されていることを確認した。また、これらコンクリート遺構は兵器支廠造成土内に構築されていた。

上記のコンクリート床の北側に位置する柱基礎掘り方でもコンクリート面を検出した（第 46 図 C、写真 33-4）。上記のコンクリート床に連続する遺構の可能性が高いが、両者の関係を確認できなかった。コンクリート面は東西幅約 5 m 程度の規模で、上述のコンクリート床の延長部分に位置し、南北に伸びているものと思われる。コンクリートの厚さは 5 ～ 10cm で、角礫・亜角礫碎石が主体であった。コンクリート骨材が角礫・亜角礫を主体とすることから第二次大戦後の遺構である可能性がある。防火用水槽など、貯水施設の可能性がある。隣接する原爆放射線医科学研究所・研究 B 棟とは平行せず、隣接する市道にほぼ平行することから上大河駅の関連施設かもしれない。



第 47 図 2018 年度東千田地区立会調査位置図（縮尺 1 : 2,000）
 (1. (東千田地区) 平和企画としてのタイムカプセル埋設)

この他、調査区南西部で枕木を再利用したと思われる角材（幅約 20cm）を検出した。東西方向に水平に配置されていた。長さ約 1.7 m 分を確認した。ゴミ焼施設の外枠の可能性もあるが、検出木材の西端に続く木材は確認されず、性格は不明である。

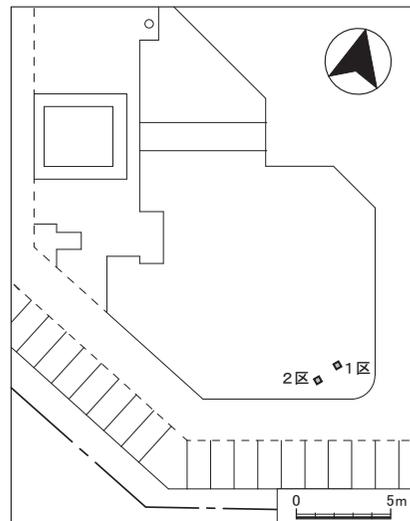
東千田地区（広島市）

1) (東千田地区) 平和企画としてのタイムカプセル埋設

所在地 広島市中区東千田町一丁目 1 番 89 号

調査期間 2018（平成 30）年 8 月 2 日

調査面積 102.0 m²



第 48 図 (東千田地区) 平和企画としてのタイムカプセル埋設調査区位置図
 (縮尺 1:400) (1区、2区が調査区である)



34-1 調査区全景（南西より）



34-2 2区調査状況（北より）



34-3 1区完掘状況（南より）



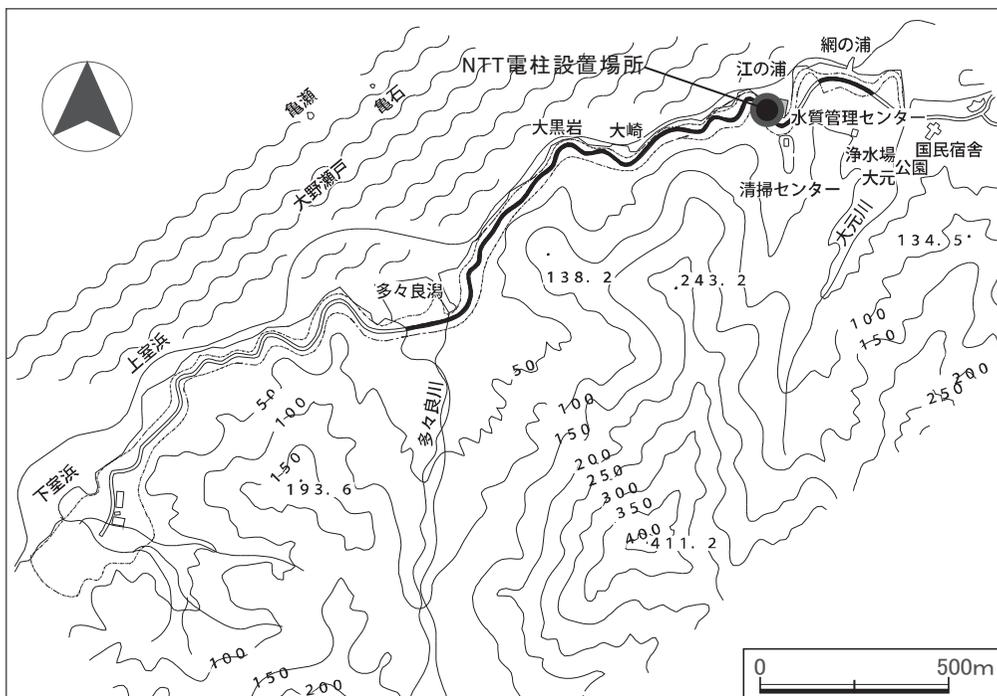
34-4 2区完掘状況（南より）

写真 34（東千田地区）平和企画としてのタイムカプセル埋設に伴う試掘調査

調査者 藤野次史

調査概要（東千田地区）平和企画としてのタイムカプセル埋設に伴って立会調査を実施した（第 47 図 1）。図書館（校舎 S 棟）の西側の芝生にタイムカプセル埋納掘り方 2 基掘削した（第 48 図 1 区・2 区）。1 区（東掘り方）は平面方形で、一辺約 0.5 m、深さは 0.5 m の規模で掘削した（写真 34-3）。2 区（西掘り方）は 1 区の南西約 2 m に位置し、平面方形である。東西約 0.55 m、南北 0.5 m、深さ 0.5 m の規模で掘削した（写真 34-4）。両地区とも表土下に 1～2 枚の盛土（橙褐色砂質土：真砂土）が認められ、その上下に暗褐色、黒褐色土層（炭化物粒が認められる）が堆積していた（第二次大戦終了後の陶磁器を包含）。

調査では、遺物、遺構とも検出されなかった。



第 49 図 (宮島) NTT 電柱新営工事位置図 (縮尺 1 : 2,000)

宮島地区 (廿日市市)

1) (宮島) NTT 電柱新営工事

所在地 廿日市市宮島町 1171 - 3

調査期間 2018 (平成 30) 年 4 月 27 日

調査面積 約 0.8 m²

調査者 藤野次史

調査概要 NTT 電柱新営工事に伴って立会調査を実施した (第 49 図●印)。工事では電柱 2 本を新設する予定で、広島大学の敷地内の 1 本の設置について立会調査を実施した。設置場所は道路東側のわずかな平坦地で、旧地形は東側に位置する宮島町水質管理センターに面する崖状の急斜面である。断面 L 字状に削平して道路を造成しており、開発地は削平面東端もしくは造成土による平坦地と推定される。道路部分は基本的に旧地形が削平されたと考えられるが、崖状の急斜面に隣接する開発対象地は旧地形が削平されていたとしても、堆積層が残存している可能性のある場所である。

最初に人力で径 0.5 m 程度の掘り方を地表下約 0.8 m まで掘削した。表土 (暗褐色粘質土) 下は黄褐色砂質土 (粗い粒子の真砂土) で、底近くで赤褐色から橙褐色砂質土 (真



35-1 調査区全景（南より）



35-2 機械掘削(ドリル)による堆積土排出状況(西より)



35-3 電柱基礎掘り方完掘状況（北西より）

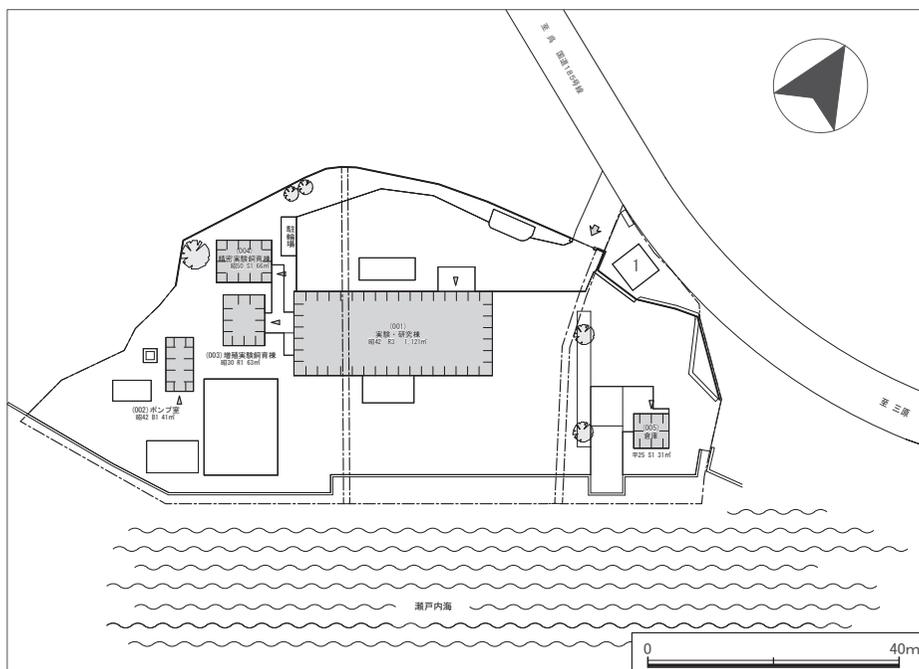


35-4 電柱基礎掘り方完掘状況（北西より）

写真 35（宮島）NTT 電柱新営工事に伴う立会調査

砂土)に変化している。地表下約 0.8 m 以下は機械掘り(ドリル)で掘削した(写真 35-2)。6 回に分けて掘削し、地表下約 2.7 m まで掘削した。地表下約 0.8 ~ 1.4 m は橙褐色砂質土(真砂土)、それ以下は暗黄褐色砂質土(真砂土)であった。機械を操作していたオペレーターによると、手ごたえが地表下 2 ~ 2.2 m 付近で変化したとのことで、上記の深さ以下で地山となったと推定される。掘り方からの排出土は、その付近の深度でやや色調が淡くなり、粒度が細かくなった。掘削完了時の掘り方は東西約 0.6 m、南北約 0.65 m の規模であった。

遺物、遺構とも検出されなかった。



第 50 図 2018 年度竹原地区立会調査位置図 (縮尺 1 : 1,200)

(1. 竹原港町【代替】基地局新設工事 (広島大学竹原ステーション携帯電話基地設置工事))

竹原地区 (竹原市)

1) 竹原港町【代替】基地局新設工事 (広島大学竹原ステーション携帯電話基地設置工事)

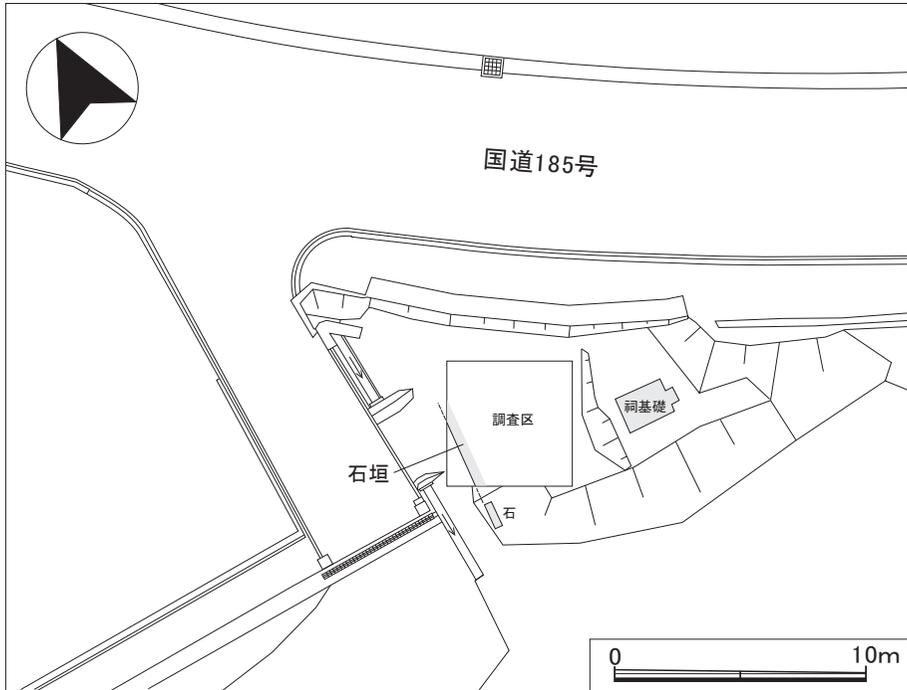
所在地 竹原市港町 5 丁目 戊 1294 番

調査期間 2019 (平成 31) 年 2 月 7 日・8 日・27 日

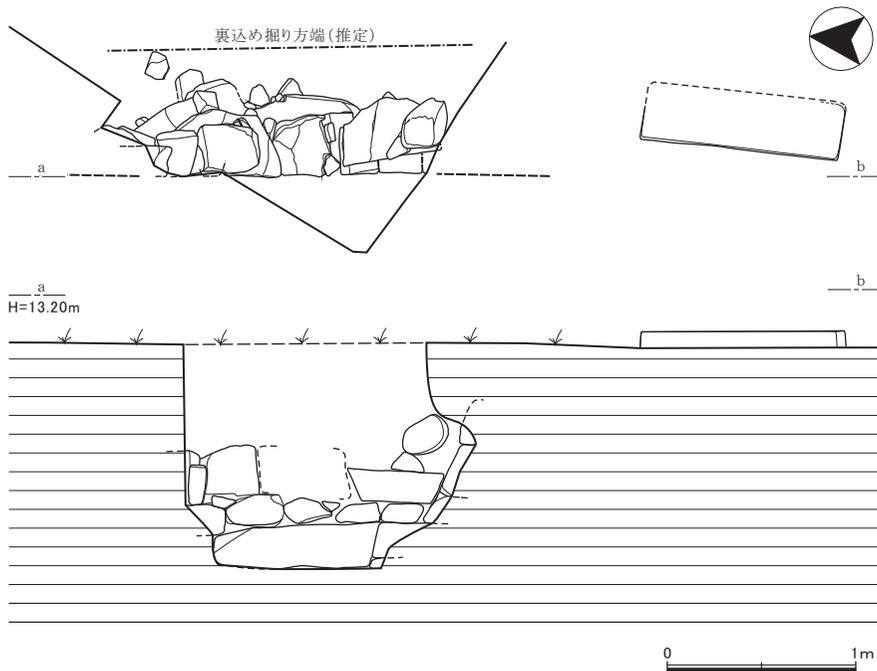
調査面積 25.0 m²

調査者 藤野次史

調査概要 NTT 基地局新設工事に伴って立会調査を実施した (第 50 図 1)。携帯電話基地局の基礎を設置するため、東西 5.0 m、南北 5.0 m、深さ約 1.7 m の基礎掘り方を掘削した。調査区北端部に花崗岩岩盤が位置しており、70 ~ 80 度の急傾斜で調査区北部に傾斜している (写真 36-4)。岩盤表面の状況から竹原ステーション側の敷地の造成に伴う削平面と思われる。北壁で岩盤の高さは約 1 m である。堆積層は、おおむね南側に向かって緩やかに傾斜するものの、ほぼ水平に堆積している。岩盤より上部の層は調査区全体に堆積が認められるが、岩盤以下の層は中央部付近で堆積が終わる層と堆積が始まる層が認められる (写真 36-3)。海成層と考えられる堆積層は認められず、岩盤直下の堆積層の



第 51 図 携帯電話基地設置工事立会調査区と検出石垣の位置図（縮尺 1 : 300）



第 52 図 竹原地区携帯電話基地設置工事検出石垣実測図（縮尺 1 : 40）



36-1 調査区全景（南西より）



36-2 掘削状況（北西より）



36-3 調査区東壁堆積状況（北西より）



36-4 調査区北壁岩盤露出状況（南西より）



36-5 完掘状況（東より）



36-6 検出石垣の上面観（西より）

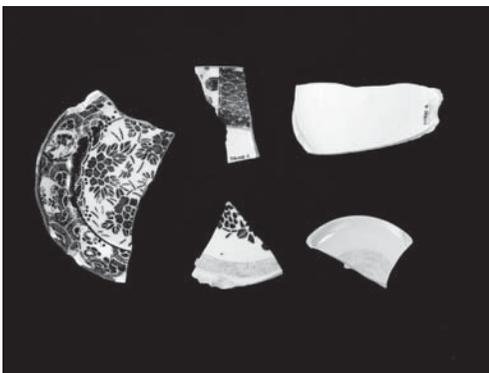
写真 36 竹原地区携帯電話基地設置工事に伴う立会調査（1）



37-1 石垣検出状況（東より）



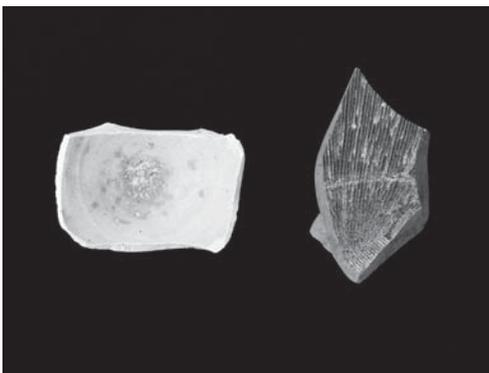
37-2 石垣完掘状況（東より）



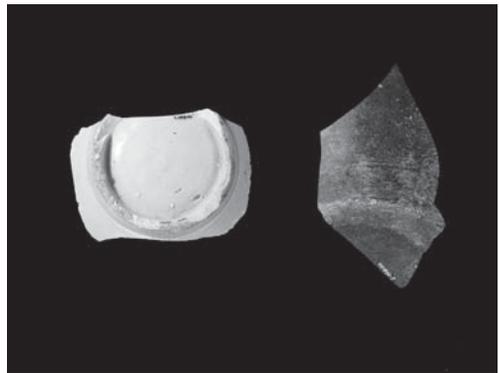
37-3 出土磁器内面（皿・鉢・蓋ほか）



37-4 出土磁器外面（皿・鉢・蓋ほか）



37-5 出土磁器・陶器内面（瓶・播鉢）



37-6 出土磁器・陶器外面（瓶・播鉢）

写真 37 竹原地区携帯電話基地設置工事に伴う立会調査（2）

うち急角度で堆積している層は全くない。花崗岩岩盤が削平を受けていること、堆積層がほぼ水平であること、岩盤以下の堆積層が狭い範囲にもかかわらず調査区中央付近で途切れることなどからすると、人為的な堆積層（盛土）の可能性が考えられる。調査区の東側隣接地には花崗岩切石による基壇状の構築物が位置しており（写真 36-5 画面左下）、聞き取り⁽¹⁾によってかつて小規模な祠が存在し、基壇状の石組構築物は祠の基礎であることが確認されたことから、上記の推定が妥当であると考えられる。

調査区南西端部で石垣遺構を確認した（第 51 図石垣、写真 36-6、37-1・2）。確認に至るまでに石垣の一部が破壊されたが、ほぼ遺構の規模を復元することができる。石垣はほぼ南北方向に構築されており、2 m 分（石垣背面）を検出した（第 52 図）。高さは推定で約 0.7 ～ 0.9 m である。不揃いの割石、角礫を使用しており、4 段程度の石積みを確認した⁽²⁾。最下段に大型の割石を利用し、2 段目は幅 20 ～ 30cm、高さ 15cm 程度の小型の割石・角礫を、3 段目は幅 30 ～ 50cm、高さ 20 ～ 30cm のやや大型の割石・角礫を使用している。最上段はほとんど構成石が失われたが、工事中の観察や未調査区の断面で露出している構成石を参考にすると、3 段目と同等かやや小型の割石・角礫が使用されていたと推定される。石垣の裏込めは基地局基礎掘り方側に位置することから、石垣検出前に工事掘削によって失われ、その規模や形状を確認することはできなかった。しかし、基地局基礎掘り方床面にわずかに大小の礫を包含する土層が残されており、石垣基底部の規模はある程度推定が可能であった（第 52 図平面図破線）。また、基地局基礎掘り方の壁面に石垣掘り方が不明瞭ながら観察することができ、おおよその形状も推定できた（残りの石垣構成石が不安定な状況で、壁面が崩壊の恐れもあったため、十分な清掃は困難であった）。上記の状況から、石垣掘り方は基底部付近で石垣面から奥（東）へ 0.7 m 程度規模と推定された。

石垣の構成礫の隙間や裏込めから陶磁器が出土した（写真 37-9 ～ 12）。磁器は鉢、皿、壺などである。印判手を主体とし、伊万里系や小谷焼と思われる。陶器は挿鉢で、産地は不明である。近世末～近代前半（明治時代）に位置づけられる⁽³⁾。石垣の構築時期を示すものと考えられ、神社存続期間の一端を示すものであろう。基地局基礎掘り方の東側隣接地は平坦地が造成されており、上述のごとく基壇状の石組構築物が存在している。石組は東西約 1.9 m、南北約 1.5 m の規模で、上下 2 段に構築されている。石組は祠の基壇である。基地局基礎の設置場所は、工事前は平坦な広場状の地形で、今回の調査で石垣の構築は北に向かって連続しており、神社境内西端は石垣が構築されていると推定される。また、石垣を検出した場所から約 1 m 南側には、長さ約 1 m、幅約 0.3 m の長方形

の切石がほとんど埋まる形で位置しており、切石長辺は石垣の延長線にほぼ一致している。祠基壇の近くにも同様の切石があり、階段が存在する可能性もある。これらのことから、工事地区及びその周辺は神社境内であったと想定される。石垣内から出土した遺物は境内に分布していたものが石垣構築時に混入したものと推定される。現時点では、石垣構築の経緯は不明であるが、上述したように、神社境内に散布していた陶磁器類が石垣の構築（修復）の際に混入したとすれば、あるいは祠と石垣の構築時期に時期差がある場合、神社の成立は近世末を遡る可能性もある。現在、関連文献の調査などを通じて神社設置の経緯や存続期などを調査しているが、詳細は不明である。

三原地区（三原市）

1)（三原）陶芸教室周り給水管修繕工事

所在地 三原市館町二丁目6番1号

調査期間 2018年6月6日

調査面積 約42㎡

調査者 石丸恵利子

調査概要 三原地区における陶窯芸室周りの給水管が漏水しており、修繕にともなう立会調査をおこなった。また、小学校体育館北側のプレハブ設置に伴う地盤の整地とコンクリートの土間の設置が予定され、これらの工事も合わせて立ち会い調査を行い、地下の堆積状況の確認を行った。前者を1区、後者を2区とした（第53図）。

1区 漏水修繕箇所においては、漏水箇所を特定するため、陶窯芸室建物の東端から約2mの場所にある給水蛇口から配管に沿って建物側に掘削を開始し、さらに建物脇は南側に約3mの掘削を行った。建物内部とそれよりさらに西側に延びる配管があり、西側へ延びる部分の流れを止めたところ、メーターが回らなくなったため、その部分が漏水していることが判明した。その部分での漏水が判明した場合使用を中止し、地中にそのまま埋設しておくこととし、この段階で掘削は終了した。

掘削範囲は、水道メーター周辺の約6㎡で、深さ0.4m前後であった。掘削はすべて配管の掘方内であったため、遺構・遺物は確認されなかった。埋土は暗褐色もしくは黒褐色の砂質土であった。

2区 プレハブ設置場所においては、設置時の整地のため、小学校体育館の北側を東西11.2m×南北3.2mの範囲を深さ0.2～0.25mで掘削した。埋土は黄褐色の真砂土、あるいは暗褐色土で、1cmからこぶし大の角礫を多く含む堆積土であった。遺構・遺物は

確認されなかった。体育館建設時の整地層(真砂土)に、一部山側斜面から崩れた土壌(暗褐色土)が覆った堆積と考えられた。

2) (三原) 外灯取替工事

所在地 三原市館町二丁目6番1号



38-1 1区掘削風景(南東より)



38-2 1区掘削後(南東より)



38-3 1区掘削後(北より)



38-4 1区掘削後(南西より)



38-5 2区掘削後(北東より)



38-6 2区掘削後(南東より)

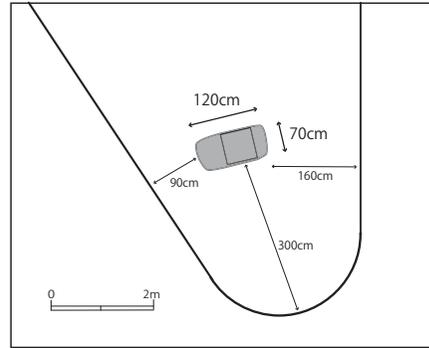
写真 38 (三原) 陶芸教室周り給水管修繕工事に伴う立会調査

調査期間 2018（平成30）年12月25日

調査面積 約1㎡

調査者 石丸恵利子

調査概要 小学校校舎と中学校校舎の境にある花壇部分に設置されている外灯の取替工事にもなう立会調査をおこなった。コンクリート基礎中央に設置された外灯が腐食しており、既設のコンクリートを除去し、新しいものと交換するために掘削をおこなった。周りの地表面から約40cmの高さに設置された花壇表面において、60cm四方のコンクリート基礎を掘り出すため、東側を20cm、西側を40cm掘り起こし、基礎に布テープを巻き付けたのちに重機で持ち上げて引き抜いた（第55図）。



第55図 外灯取替工事調査地点平面図
（縮尺1：150）



39-1 掘削前（南より）



39-2 基礎抜き取り後（南より）



39-3 基礎抜き取り後（西より）



39-4 礎抜き取り後深度（西より）

写真39（三原）外灯取替工事に伴う立会調査

新設するコンクリート基礎は長さ（深さ）80cmであったが、既設のコンクリートは長さ125cmあったため、これ以上の掘削は行わなかった。断面および表面を掘削した土の観察より、土壌埋土は暗褐色砂質土で遺物は含まれていなかった。工事範囲はすべて後世（花壇製作や外灯埋め込み時）の掘削埋土で、本工事での掘削は、近世以前に関連する遺跡には影響しないものであった。

3. 小 結

2018年度は、東広島地区5件、霞地区1件、東千田地区1件、宮島地区1件、竹原地区1件、三原地区2件の立会、試掘（立会）調査を実施した。このうち、霞地区で近代～現代、竹原地区で近世末～近代前期の遺構を検出した。

霞地区では、（霞）YHRミュージアム新営工事で石垣基底部を検出した。2013年度の隣接地で検出した石垣と同一遺構と判断される。旧広島陸軍兵器補給廠（支廠）西端境界施設あるいは上大河駅（兵器支廠前駅）に関連する遺構の可能性があるが、性格を明らかにすることはできなかった。また、コンクリート床を検出した。全体の規模を確認することはできなかったが、南北5m以上の規模が推定される。骨材の状況から第二次世界大戦終了後に構築された可能性があるが、兵器支廠造成土内に構築されていることから、兵器補給所に関連する遺構である可能性も残されている。

竹原地区では近世末～近代前期の石垣を確認した。石垣の東側に祠跡が存在し、一帯は小規模な神社跡であることが確認された。祠跡周辺は西側より一段高い平坦部を形成しており、祠跡南側には階段が存在した可能性もある。祠跡西側の一段低い平坦部（今回の開発部分）の西端には石垣が構築されており、神社域の西端を画すると考えられる。神社の由来や成立時期は現在調査中であり、詳細は不明であるが、出土遺物からみて、遅くとも近世末には成立していた可能性が高い。神社に関する調査を継続するとともに、今後、開発には十分な配慮が必要である。

註

- (1) 生物生産学部竹原ステーション（現在、統合生命科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター）で工事地区の施設について取材したところでは、工事地区周辺は、元々、祠が設置されていたとの情報を得た。また、竹原市教育委員会の三輪氏からも、かつて祠が存在したことを確認することができた。
- (2) 石垣面（石垣の正面）は調査区境にあり、観察することはできないことから、構成石を1点ずつ外し

ながら立面図を作成した。調査写真についても石垣正面からの撮影は不可能であり、いずれも石垣を裏側から見たものである。

(3) 出土の陶磁器については、東広島市教育委員会石垣敏之氏の教示を得た。

引用文献

藤野次史 2016 「外来診療棟工事④駐輪場設置工事」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第7号、広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門、66～67頁。